

行三驛、過畢里紇都、乃弓匠積養之地、又經一驛、過大澤泊、周廣約六七十里、水極澄澈、北語謂吾悞竭腦兒、自泊之南而西、分道入和林城、相去約百餘里』と、これを大清一統輿圖に見るに、燕京を出てより宣化府に至る迄は現今北京より庫倫に至る道と全く相合するものにして、少しも疑點の存するものなし、即ち桑乾河に沿うて上ると云ふものは桑乾河の上流(支流)洋河にして、宣德府の今の宣化府なることは明なり、歴代地理沿革表にも『唐曰武州、遼爲歸化州……屬雲中府、金天眷初改宣德州、屬大同府、大定七年又改宣化州、八年改曰宣德州、治宣德……元中統四年改宣德府、隸上都路……明洪武……二十五年稱宣府、……在雲州所東五百五十里境外』と記せり、現今の道路は茲より直ちに張家口に向ふと雖、德輝の道は尙ほ西方によりて河に沿ひたるものなること、砂嶺子に出たりと云ふ以て知るを得へく、此地は圖示せるか如く拜察河の洋河に注く地の東方にあり、得勝口の何つれの地たるやは明らかならずと雖も、之を出てと直ちに扼胡嶺即ち野狐嶺に出たりと云へは、或は今の膳房堡にはあらざるなきや、これさきに長春真人か彼と同じく宣德府を経て野狐嶺を通過し、北行したる間に膳房堡の關口翠峯口に宿して其翌日野狐嶺を度るといふより見るも、亦現今の道路の翠峯口の東隣なる張家口を出つるものか野狐嶺を通過せざるより見るも、誤らざる所ならんか(翠峯口は方輿記要にも翠峯山口として『在渾原州南』といへり)野狐嶺は能く知らるゝ處にして、方輿記要によれば、在萬全縣東北といひ、口北三廳志には膳房堡の北方五里なりといふ、撫州は今蒙古にて Karabalgassun と云ひ張家口より庫倫に至る途上殆んど二十哩の處にありて『撫州金置、元爲興和路、明廢、故城今在張家口外、鑲黃旗牧廠西南』と記せり、昌州は、パラヂウス Palladius の Chaganbalgassun と比定する處にして、恐くは誤りなかるへし、德輝は茲に州之北行百餘里といへとも、此地より北行せしものとは